

## 検討事項（案）について

1. 背景

## (1) 人生 85 年時代の到来

女性の平均寿命が85歳を超え、男性の平均寿命も80歳に近づいており、まさに人生 85 年時代を迎えている。

これまでの暮らし、働き方、人生設計が時代に合わなくなり始めていることを踏まえ、例えば「江戸時代の高齢期における活動」「ヨーロッパにおける長期休暇」「ラテン系の人生の楽しみ方」など現在の日本と異なる文化・価値観・生活様式等も参考にしながら、いきいきと人生を楽しむ「これからの日本人の『暮らし』『働き方』『人生設計』」のイメージを描き、併せてそれを支える仕組みをどうするのかについて、幅広い視野から検討することとする。

## (2) 社会経済情勢の変化

検討に当たっては、単に日本人の寿命が延びただけでなく、「人口増加社会から人口減少社会への転換、人口減少の加速」、「団塊の世代の高齢化」、「平均世帯人員の減少」、「生活習慣の変化に伴うメタボリックシンドロームの深刻化」、「グローバル経済化に伴う企業間競争の激化と働く環境の変化」、「ボランティア活動の活発化、自由時間の重視など国民の意識や行動の変化」など社会経済情勢の変化にも留意が必要。

2. 検討事項（案）

## I いきいき人生のための基礎づくり

- 人生の各段階において「いきいきと」生活するためには、若い時期から、例えば以下のような「基礎づくり」を重ねていくことが求められるのではないか。「基礎づくり」に向けて、今後どういった取組を進めるべきか。

・ 生涯にわたる健康確保

例 若い時からの健康づくり、生涯にわたる医療・介護・福祉等の社会保障サービス

の確保 等

・ 長期休暇制度の普及等による生涯にわたる学習機会の確保

例 文化活動や遊びを通じた多様な経験、知識や技術の習得 等

・ 高齢期の安定した所得の確保

例 皆が安心できる年金制度の構築、安定した職業キャリアの積み重ね 等

## II 自己実現に向けた働き方の改革

○ 人口減少社会の中で、働く意欲のあるすべての人が、希望に応じて働けるようにしていくことは今までにも増して重要ではないか。若者・女性・高齢者・障害者等の就労支援を展開するとともに、例えば以下のような「働き方の改革」を通じ、より多くの人々の自己実現を図り、「人生85年時代」を突りあるものにしていくことが必要ではないか。

・ 若者、女性、高齢者、障害者等すべての人の就労支援

・ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現

・ 家族形成の支援

例 若者が安心して結婚し家庭を持ち、子どもを育てることができる環境、すべての人が希望する働き方で安心・納得して働くことができる環境（生涯現役社会）、高齢期の就業機会確保と子育て期の長時間労働抑制 等

・ 働く人一人ひとりの資質・才能の尊重

例 「職人の技」の再評価、人の持つ「知恵」・「感性」・「思いやり」等を活かした付加価値の創出 等

## III 地域・社会参加によるいきいき人生の実現

○ 雇用されて働く労働者の価値観が多様化し、会社や職場集団を重視した姿から、家庭はもとより、地域社会なども尊重した姿に変わっていくのではないか。

そうした中で、例えば以下のような地域活動や創業等による「いきいき人生」の実現も「人生85年時代」における重要な課題ではないか。

・ 地域コミュニティの再生・社会貢献活動

例 仕事以外の形での社会貢献活動（子育て支援・介護・観光ガイド・環境・町内会等）

・ 創業、コミュニティビジネスの実施

例 これまで培ってきた技能やノウハウを活かした創業、文化活動やまちづくりと連動した事業展開 等

・ 田舎暮らしのすすめ、地域の活性化

例 地域医療の充実、住宅の整備、地域活性化策の推進